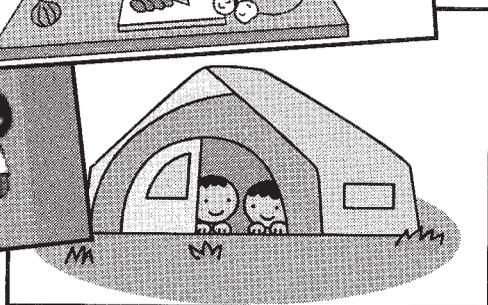
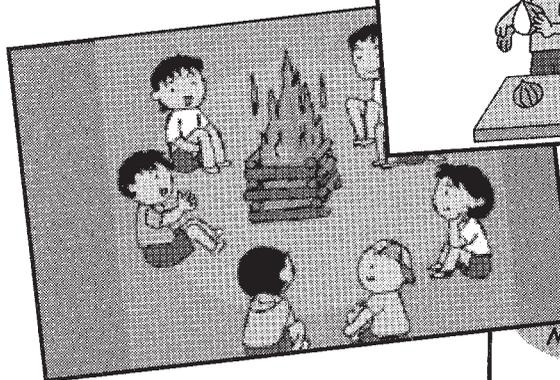
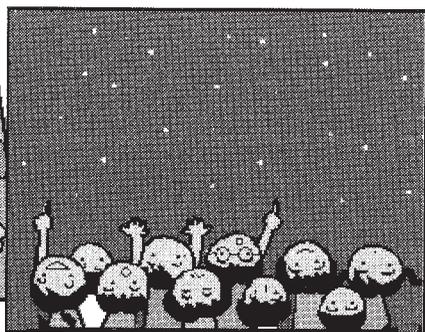
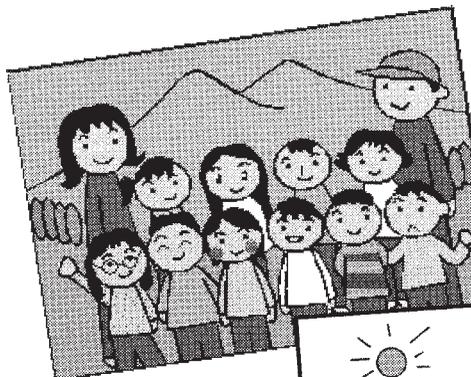


子ども会のしおり



愛知県子ども会連絡協議会

愛知県子ども会の歌

原 道夫 作詞
星野静子 作曲
森 一也 編曲

行進曲の早さで

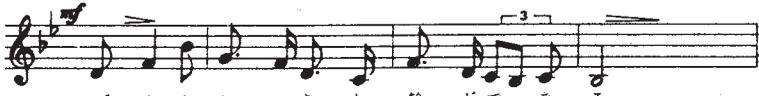
(小さな手)



りょうてをしっかりとにぎろうよ



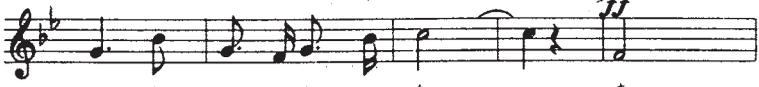
みんなちいさな手だけれど



ごらんおきな輪がでさる



あかるいーまちの



はなひーらーくーあー



ーたのしい ランラ あいちの



こどもーかい

2 両手をまっすぐのばそうよ
 みんな小さな手だけれど
 高い空まですぐとどく
 明るいゆめがあふれてる
 ああたのしい愛知の子ども会

3 両手を元気にならそうよ
 みんな小さな手だけれど
 いつか世界の朝をよぶ
 明るいあすがやってくる
 ああたのしい愛知の子ども会

目 次

第1部 理論編

第1 子ども会とは	1
第2 楽しい子ども会活動をするために	8
〔1〕 子ども会例会の開き方	8
1. 子ども会の例会はどんなことをするのか	
2. 例会を開く方法	3. 例会のもち方についての注意
4. 例会の進め方	5. 例会のプログラム参考例
〔2〕 楽しいプログラムづくり	10
1. 子ども会のプログラム	2. プログラムの条件
3. プログラムを決める前に	4. プログラムの決め方
5. 希望しらべのやり方	6. プログラムを組むときは
7. まず年間プログラムからつくる	8. 年間プログラムと予算
9. 月間プログラム	10. 行事プログラム
第3 子ども会活動	16
〔1〕 リーダー	16
1. リーダーとは	2. リーダーの心がまえ
3. リーダーに必要な技術	4. 理想的なリーダーとは
5. リーダーは活動の基本をどこにおくか	
〔2〕 子ども会活動	19
1. 子ども会活動としてどんなことがあるか	
2. 子ども会の会則	3. 経費はどのようにするか
4. 子ども会の会場	5. 子ども会の記録
〔3〕 子ども会をのばしていくために	24
1. リーダー研究会を開く	
2. ジュニア・リーダー、指導者、育成者にしてもらうこと	

第2部 実技編

〔1〕 子ども会新聞	27
------------------	----

[2]	ハイキング	28	
	1. ハイキングの目的	2. ハイキングとは	
	3. 注意すること	4. 追跡ハイキング	
[3]	オリエンテーリング	30	
	1. オリエンテーリングの目的		
	2. オリエンテーリングの方法	3. 準備するもの	
[4]	キャンピング	31	
	1. キャンピングの目的	2. どんなどころがよいか	
	3. キャンプにでかけるのに必要なもの		
	4. テントの張り方とキャンプをする順序		
	5. 注意すること	6. 野外炊事のしかた	
	7. キャンプ地の生活	8. さようならキャンプ場 ふろく、カレーライスの作り方	
[5]	火をかこむつどい	40	
	1. キャンプ・ファイヤー	2. キャンドル・ファイヤー	
[6]	楽しいゲーム	44	
	1. 集合ゲーム	2. 命令ゲーム	3. 木の中のリス
	4. 指キャッチ	5. ジャンケン陣とり	6. 名前送り
	7. ねずみとねこ	8. ジャンケン・チャンピオン	
	9. はじめの一步	10. 大あらし	11. おちたおちた
	12. ジャンケンおんぶ		
[7]	みんなでうたおう	54	
	1. 子ども会のうた	2. 燃えろよ燃えろ	3. 一日の終わり
	4. 遠き山に日は落ちて	5. ごはんのうた	
	6. たまご	7. 森の熊さん	
	8. こんにちははどなたです	9. 山賊のうた	
	10. すいかの名産地	11. 静かな湖畔	12. 八百屋のお店
	13. ドレミの歌	14. てのひらをたいように	
	15. 今日の日はさようなら		

第3部 資料編

[1]	危険予知トレーニングのすすめ方	63
[2]	県下の主なキャンプ場等	67
[3]	青少年団体の紹介	70

第1部 理論編

第1 子ども会とは

子ども会

子ども会は就学前3年の幼児から高校3年生年齢相当までを構成員とし、地域の基盤とした異年齢の集団です。

その活動を支える指導者と側面から援助する育成者が必要であり、この子どもの集団と指導者、育成者を含めた総称として用います。

子ども会とは

子ども会とは、仲間と活動を共有することによって、その子の、その子が参加している集団の、より望ましい成長を意図したコミュニティ活動です。地域を基盤とし、仲間集団のもつ形成力と、活動（経験）を通しての成長を統合し、よりたくましい子ども、子ども集団を実現しようとする活動です。

家庭・学校では、与えることが困難な、しかし、子どもの発達にとって不可欠な経験を与えることを目的としており、家庭・学校はもとより、地域の諸機関・諸集団と強い連携を保ちながら、活動を進めていくことが大切です。

子ども会のねらい

子どもは、遊び仲間を求めており、遊びを通じて社会の一員として必要な知識、技能、および態度を学んでいます。このような子どもの遊びの特徴をとらえ、健全な仲間づくりをすすめ、心身の成長発達に大切な活動を促進助長するのが子ども会です。このような活動は、学校や家庭における教育とともに、欠くことのできない重要な教育的活動であることを再認識しましょう。

今日の子どもは21世紀に生きる……。子どもを豊かな社会の担い手にふさわしい人間として育てるために、子ども会活動をひろく進めましょう。

単位子ども会

単位子ども会は、子ども会活動を進める上で必要な目的、事業、役割、財源などすべての機能をもっている独立した組織です。

単位子ども会は、一人ひとりの子どもが仲間と力を合わせて活動するもっ

とも身近な集団であり、その活動を通して得られる成功体験や失敗体験が、子どもたちの成長に大きな影響を及ぼすきわめて重要な集団です。

単位子ども会は、子ども集団と指導者、育成会をもって構成されますが、子ども集団の規模は、40～50人が適切であり、その中に10人前後の班を設けて小集団活動を進めることが最も大切です。

子ども会会員

子ども会の会員は就学前3年の幼児から高校3年生年齢相当までを対象とします。

地域の実情や今日までの経過などによって、会員の範囲を小学生だけに決めているところや未就学児もすべて入れているところもあります。それが誤りであるというわけではありませんが、子ども会は仲間と活動を共有し、自分たちの手で運営していく自治集団を志向していますから、それにふさわしい年齢構成であることが必要です。

子ども会役員

子ども会の役員はその目的を達成するため、会の運営にあたります。

役員は、会長、副会長、会計、記録、監査を置き、通常、総会で選びます。その他、班長や広報、レクリエーションなどの担当者、クラブの代表者などを役員として位置づけているところもありますが、これらは会則（規約）で決められます。

役員は、会長を中心に協力して会の運営にあたり、会員の意思をまとめ、ジュニア・リーダーや指導者とよく相談して、活発な活動が展開されるよう努めます。

子ども会活動

子ども会は、その目的を達成するために種々の活動を展開します。

会の運営のために会議活動や係活動が必要です。役割を分担しながら行事活動を共有したり、10人前後からなる班で日常活動を展開するなど、子どもが中心となって活動を進め、仲間とともに成長することを期待しています。

会の運営も会則に基づいて子どもが中心となって進めます。

子どもの成長のためには、それにふさわしい活動が必要です。子ども会活動は、その活動の性格に注目して、社会的活動・スポーツ・レクリエーション活動、文化的活動、科学的活動、奉仕の活動などに分類されます。子ども会活動としては、子どもの要求や教育の必要上から、これらの活動を組み合わせて、会の目的にそった活動を行事活動や日常活動として展開し、一人ひとりの人間的成長を図ります。

行事活動

新入会員歓迎会、七夕のつどい、運動会、ハイキング、年忘れ子ども会など、子ども会として多くの行事を取り上げていますが、その活動を行事活動といいます。分類すると社会的活動・スポーツ・レクリエーション活動、文化的活動、科学的活動、奉仕の活動などがあげられます。ひとつの行事を行なうには、子どもたちが集まって相談し計画を立て、役割分担し、いろいろと前もって準備をして当日をむかえ、その結果を反省し、次の活動に結びつけていくというように一貫した活動を進めなければなりません。おとなの人が全部お膳立てして行なわれるものであってはなりません。

したがって、ひとつの行事を進めるためには、相当な期間をみなければなりません。

ですから、毎月、ひとつ乃至ふたつの行事が組まれている子ども会年間計画をみますが、それは無理があるのです。年間に行なう行事は、その年の子ども会の重点目標にそって必要な活動を取り上げていきましょう。

ムリ、ムダ、ムラのないよう行事を精選して、みのりある活動を進めたいものです。

育成会（員）

育成会は、地域の育成者が力を合わせて子ども会活動を援助するための組織です。したがって、子どもたちが自主的に運営する子ども会活動を側面から援助するものであって、育成会があって子ども会があるものではありません。

地域の育成者は、育成会に加入することによって育成会員となり、会の目

的にそって組織的、継続的な一貫性のある活動を行ないます。

育成会は、組織ですから、会則（規約）をもち、目的、事業、入会手続き、役員、会費などが明らかにされていなければなりません。

育成者

育成者、子どもをもつ親（父母）はもちろんのこと、地域に住むすべてのおとなの人々をいいます。

子どもたちの人間形成は、総合性をもって行なわれるものであり、家庭・学校・社会の三者がそれぞれの教育機能を十分発揮し、同時に緊密に連携しなければなりません。地域の教育力を高めるためには、地域のおとな一人ひとりが育成者であることを自覚し、子ども会育成のために精神的、物質的援助を協力して行なうことが大切です。

育成は身近なことから

育成会の活動領域をいくつか掲げましたが、これはあくまで指針をのべたもので、一人ひとりの育成者が全項目にわたって、活動しなければならないというものではありません。いいかえると、ひとつの項目を手がかりに活動していくと、やがて他の領域の活動まで広がるのです。

子ども会の育成は、まず育成者同志の連携協力のもとに、身近なことから活動をはじめましょう。

異年齢集団

地域社会などにおいて、主として遊びを媒介として形成されるインフォーマルな集団をいい、かつてのガキ大将に率いられた遊び仲間がその典型です。

地域や子どもの生活の変質により、こうした集団は消滅の危機に瀕し、今日では、子どもの遊び仲間は、同じ学年・学級ということで形成される同年齢者からなるというのが一般的です。経験・興味・能力等を異にする年齢の異なったものからなる集団の形成力に注目し、またそうした集団が子どもの生活基盤である地域に成立することを期待して、異年齢集団の重要性が強調されています。

遊びは子どもの生活

最近の子どもたちは、あまり遊ばないといわれています。しかも、仲間遊ぶ機会が少なくなっています。その理由として、遊び場の不足、交通事故の危険、進学準備などが考えられますが、親やおとなの遊びに対する考え方も、子どもの遊びを消極的にしていることを見落としてはなりません。

おとなの世界では、遊びは非生産的であり、よくない意味にとられがちです。だから、子どもの遊びについても、小さいうちは見逃しますが、大きくなると机に向かって勉強することを強いるようになります。

遊びは子どもにとって、おとなの仕事同様に重要なものであり、成長するうえに欠くことのできない活動です。

集団を見まもり、育てる

子どもの遊び集団は、いつも健全な活動ばかりををするとは限りません。まだ経験に乏しく、思考力も十分でないので、危険な遊びやよくない遊びに興味をもつこともあります。またひとりのときには、してはいけないとわかっていることでも、集団になると、ときの勢いでよくない方向に進んだりすることもあります。

そこで、子どもの集団が悪い方向に進まないように、さらに遊びの教育的価値を高めるための活動が行なえるよう、おとなが愛情をもって見まもり、よい環境の中で、活発な活動が展開できるよう、導くことが大切です。

子ども会活動を通じて実現する子ども像

子ども会活動を通じて実現する子ども像を学校の教育目標にあるような「明るい子」「元気な子」などとするのが求められているのでしょうか。

子ども会が求める子ども像を人間の性格特性でとらえると「自主性」をはじめとするありとあらゆるプラスの性格を活動の中で求めなければなりません。これでは、学校教育と同じことになり、社会教育として子ども会活動の独自性が失われる結果となります。子ども会活動を通じて実現される子ども像は、子ども自身が自己像として求めるものではないでしょうか。

この活動をしたから、自主性が育つというものでもありません。その活動

にどのようにかかわったかにより、主体性の割合が高まり、その結果として達成感・成就感を得るのです。この達成感が意欲に結びついていくことにつながります。次の活動自己目標として、さらに高度の達成を得ようとするものにつながります。ひとつの活動から次の活動へと連続性をもって活動することができるのが社会教育の目指すことです。年齢により、達成目標が定められているものではないところに社会教育の特徴があるのです。

ジュニア・リーダー

ジュニア・リーダーは、子どもたちへの指導・助言の内容、子ども会活動の中で担う責任の範囲、状況を判断する力量などからみて中学生、高校生（同年齢相当の者）をいい、単位子ども会に所属して、最低でも班に一名はいることが望まれます。

ジュニア・リーダーは、他の指導者や育成者の補助的機能を果たすものではなく、独自の指導的役割をもって子ども会活動を導くものです。

その主なものは次の通りです。

- ① 仲間づくりのよき理解者として、その推進に当たるとともに、自らの成長をはかること。
- ② 班活動の具体的、実践的な指導に当たり、会員の積極的参加を促進すること。
- ③ 集団指導者の指導のもとに、会長・班長など役員の活動を援助すること。

なお、ジュニア・リーダーは、その役割を全うするため、理論（子ども会とは、プログラム、J・Lの役割など）、方法（指導・援助のあり方、プログラムのたて方、会議のもち方など）、実技（スポーツ・レクリエーション、ハイキング、キャンプ、安全教育など）を履修するとともに、実際活動を通じて常に自らを高めなければなりません。

青年リーダー（シニア・リーダー）

年齢的には、18歳から24～25歳頃までの青年をさし、子ども会活動の指導・助言に当たる人をいいます。

中学・高校時代をジュニア・リーダーとして活躍し、その経験を生かし、その後とくにジュニア・リーダーの先輩として、よき相談相手としての役割が重視されます。ジュニア・リーダーと集団指導者、育成者との間にたち相互の密接な連携を図る上で青年リーダーの役割は大きいといえます。

第2 楽しい子ども会活動をするために

〔1〕 子ども会例会の開き方

1. 子ども会の例会はどんなことをするのか

- (1) 子ども会活動のいっさいは、この例会によって出発し、そしてまた、この例会においてしめくりがおこなわれます。

それは子ども会活動のすべてが、この子ども会例会において全員の討議により決定され、実行されそして反省されるからです。

- (2) 例会の主な仕事としては、つぎのようなものがあります。

- ア 子ども会役員選挙
- イ 会則の決定、または改正
- ウ 年間プログラムおよび予算、月間プログラムの作成
- エ 行事、レクリエーション等の討議および反省会

2. 例会を開く方法

- (1) 子ども会例会は、子ども会会則の定めるところにより毎月定期にまたは臨時に会長が招集します。

- (2) 例会を通知する方法としては、つぎの方法があります。

- ア 口から口に伝える方法
- イ 回らん板による方法
- ウ 子ども会けい示板を利用する方法

- (3) 通知する内容としては、例会の日時、会場だけでなく、例会の議題、プログラムなどはっきりわかるようにして、例会に参加する役員心がまえをつくっておく必要があります。

3. 例会のもち方についての注意

- (1) 始めと終わりをきちんときまりよくする。
- (2) 全体の流れを楽しくする。
- (3) 歌や、ゲームを入れる。

- (4) みんなが発言できるように工夫する。
- (5) 時間は、1時間～2時間ぐらいがよい。
- (6) リーダーは、自分から進んで明るいふんい気をつくり、会員を引き立てるようにする。

4. 例会の進め方

- (1) 集会の内容によりちがいがありますが、ふつう次のような順序が考えられます。
 - 出席をとる
 - 開会のことば（子ども会会長）
 - 歌をうたう（はじまりの歌、子ども会の歌、みんなのよく知っている歌など）
 - あいさつ（子ども会指導者、来ひん）
 - 司会者を選ぶ（そのつど選ぶか子ども会会長がなる）
 - 話し合い（前回行事の反省、新しい行事の相談、決定）
 - 結果のまとめ（記録係が決定事項を発表する）
 - レクリエーション（屋内ゲーム、グループソングなど）
 - 指導者のことば（指導者）
 - 次の集会のお知らせ（子ども会副会長）
 - 閉会のことば（子ども会副会長）
- (2) 話し合いを始める前に司会者を選びますが、司会者には、明るい空気をつくる人、みんなの発言をうまくまとめる人がよく、なるべくわかりあってやることがよいでしょう。
- (3) 次に記録係を選びますが、記録係にはそのつど会員の互選によりきめることもあり、また、子ども会書記がこの任務にあたることもあります。

記録係は、つぎの点をとくに注意して記録にとどめる必要があります。

 - ア どんな問題が討議されたか（議題）
 - イ どんな意見が主に出されたか（討論）
 - ウ どんなことが決められたか（決定）
 - エ どんな問題が残されたか（保留事項）

5. 例会のプログラム参考例

例 会 の き ろ く

年 月 日 ()		午前	時 分	～	時 分	午後
会 場	出席者		人	欠席者	人	
話しあうこと	出席者名					
内容・決定事項						
次回の予定			記 録 者 氏 名		代表者確認印	

〔2〕 楽しいプログラムづくり

1. 子ども会のプログラム

子ども会は、小さくても一つの組織ですから活動するには、プログラムをたてて合理的、計画的にすすめていく必要があります。

プログラムをたてるとつぎのようなよい点があります。

- (1) 目的をもって活動でき、計画的にスムーズにいく。
- (2) 経費の見通しがたつ。
- (3) 学校、地域などとの行事の連絡がうまくいく。
- (4) つぎの行事の楽しみがある。

2. プログラムの条件

プログラムには、つぎの3つの条件が必要です。

- (1) みんなが参加できるもの。
- (2) みんなの楽しめるもの。
- (3) みんなのためになるもの。

3. プログラムを決める前に

プログラムをつくるにあたって、次のことを考えます。

- (1) 参加する対象をはっきりつかむこと。
- (2) 目標がはっきりしていること。
- (3) だれもが参加できること。
- (4) 実施の日程や時間のタイミングを考えること。

4. プログラムの決め方

プログラムの決め方として、つぎに順序が考えられます。

- (1) 子ども会でしたいことについて会員の意見や希望をしらべる。(希望調査)
- (2) プログラム委員会をつくり、会員の希望や意見をまとめて案をつくる。(立案)
- (3) ジュニア・リーダー、指導者、育成者に助言・指導をしてもらう。
- (4) 年間プログラムは全員の総会に、月間プログラムは例会にはかってきめる。(決定)

5. 希望しらべのやり方

どんなものが一番希望されているか、学年別にどんなことが共通しているか、また、どんなことにわかれているかしらべる必要があります。

希望しらべは、つぎのようなカードを会員に配るとよいでしょう。

(例)

希望しらべカード		
〇〇子ども会		
わたしたちの子ども会では、たのしいことや、ためになることを どんどんやりたいと思いますから、つぎの表に自分でしたいことを たくさん書いてください。		
学年		男女
自分のため	子ども会のため	町のため
(例) 人形げき	(例) はい品あつめ	(例) 道そうじ
ハイキング	子ども会新聞づくり	花だんづくり

6. プログラムを組むときは

会員の希望しらべにより出されたことをプログラムに組むときには、つぎのようなことを考えることが必要です。

- (1) 子ども会の目的にかなっているか。
- (2) 自分たちの子ども会でできるか。
- (3) 楽しいか、ためになるかどうか。
- (4) 参加するのはどういう人たちか、みんなで参加してやれるか。
- (5) 名称はどうするか。
- (6) 育成会など、ほかへ協力を求める必要はないか、どうやってたのむか。
- (7) 日時や場所を決めたか。
- (8) 天候が変わったときはどうするか。
- (9) 経費はどの位必要か、それはどうやって集めるか。
- (10) 当日の進行方法はどうか。
- (11) 会員の能力や特技にあった受持ちはないだろうか、係りはいくつに分ければよいか。
- (12) 準備はどのようにしてやればよいか。
- (13) 外部へおねがいしておくことはないか、前もって警察や消防署などへ知らせしておく必要はないか。
- (14) 外から講師を招くとき、必要なことは何か。
- (15) あとしまつはどのようにするか。
- (16) 反省や評価はいつ、どこでやるか。

7. まず年間プログラムからつくる

年度のはじめにつきのことを注意して1年間の大まかな計画をたてるようにします。

- (1) 年度の子ども会目標を決める。
- (2) 何月に何をやるか大まかに決める。
- (3) 活動に変化があるようにする。
- (4) 年中行事や町や地域行事、学校の行事に関係をつけるようにする。
- (5) 子ども会育成会、青年団、婦人会、老人クラブ、学校などといっしょにできるものはないか考える。

8. 年間プログラムと予算

年間プログラムと予算については、毎年4月の子ども会総会にはかりきめます。

- (1) 各プログラムごとの予算をたて年間予算をきめる。
- (2) 収入が不足する場合は、プログラムを変える。

(例) ○年度 ○○子ども会予算 (会員30人の例)

収 入		支 出	
会費 (30人×1人月100円 ×12月)	36,000円	行 事 費	新入生を祝う会 8,200円
町の補助金	30,000		キャンプ 32,500
市町村補助金	12,000		社会見学 12,000
はい品回収	8,800		写生会、花だんづくり 7,600
			ハイキング 16,000
			小 計 76,300
			子ども会新聞 5,300
		消耗品等 5,200	
計	86,800	計	86,800

(例) ○年度 ○○子ども会 年間プログラム

今年の目標

- ・なかよく、たのしく、げんきよく
- ・良い子ども会新聞をつくろう

月	日	行事名	内容	経費
4月	2	新入生を迎える会	新入会員を子ども会に迎える	記念品 100円×5人 = 500円
5月	5	ハイキング	自然にしたしむ 野花でしおりをつくる	しおり台紙 50円×30人 =1,500円
6月				
~~~~~				
1月				
2月				
3月				

9. 月間プログラム

年間プログラムにもとづいて、月間プログラムを簡単につくります。月間プログラムはなるべく一ヶ月前までにつくり、あらかじめ会員のところにくばっておきます。

10. 行事プログラム

- (1) 月間プログラムによる行事を実際に行うときは、例会で具体的にこまかい準備や方法を相談してあらかじめ会員にしらせておくようにします。
- (2) 行事が終わったなら、あとしまつをして、よかったこと、わるかったことを必ずつぎの例会で反省をしてその結果を記録しておきます。

(例)

かつどう びい かく ほん せい 活動の計画と反省		記録者	代表者 確認印
行事名			
日時	年 月 日 ( ) 時 分 から 年 月 日 ( ) 時 分 まで		
会場			
目的			
内容			
日程・持ち物・注意事項等 (活動内容に関係のあるもの)			
当日の記録と反省			

### 第3 子ども会活動

#### 〔1〕 リーダー

##### 1. リーダーとは

子ども会は、地域のさまざまな年齢の子どもが集って、みんなでレクリエーションを楽しむことによって、仲間といっしょにいる喜び、仲間といっしょに一つのことを成し遂げる喜びを味わうための、子どものための会です。したがって、子ども会は、みんなで協力して、自主的に運営することが必要ですので、どうしてもできないことだけおとなの人に手助けしてもらうようにします。

子ども会の活動を行うためには、おのずとリーダーが必要になります。

リーダーという言葉は、指導者という意味ですが、子ども会活動のリーダーといった場合、大きく分けると

- ・指導者、育成者
- ・ジュニア・リーダー
- ・年少リーダー

の三つになります。

##### (1) 指導者、育成者

子ども会の会員の父母や地域の人々で結成されている子ども会育成会の会員で中心となって子ども会の面倒をみてる人たちのことです。

##### (2) ジュニア・リーダー

指導者や育成者と子ども会員のあいだにあって、子ども会のお手伝いをしてくれる人たちのことです。

##### (3) 年少リーダー

子ども会の会員の中から選ばれた役員のうち、会長や副会長の任務にあっている人とか、委員長、部長、班長と呼ばれて子ども会の運営に責任をもっている人たちをいいます。

## 2. リーダーの心がまえ

どのようなリーダーを会員が求めているか、つぎにあげます。

- (1) 親切で世話好きな人
- (2) まじめで責任感の強い人
- (3) ほがらかで言葉がはきはきしている人
- (4) 公平で正直な人
- (5) グループをまとめていく力のある人
- (6) 協調性のある人
- (7) 動作がきびきびして、実行力のある人
- (8) 先をよく見通すことができ、計画性のある人
- (9) 自分から先に立っておこなえる人
- (10) 人の意見をまじめによく聞く人

## 3. リーダーに必要な技術

しかし、人がらだけよくてもリーダーの任務や責任は果せるというものではありません。

つぎのような技術的なことを習得していなければ楽しい子ども会活動はできないのです。

リーダーが技術的に習得しておくこと

- (1) 組織や会則のつくり方
- (2) プログラムのたて方
- (3) 集会のひらき方
- (4) 会議や討議のすすめ方
- (5) レクリエーションの指導
- (6) 予算のつくり方と決算の仕方
- (7) 調査や記録の仕方や利用方法
- (8) 評価の仕方
- (9) 他のグループや指導者・育成者との連絡の仕方

#### 4. 理想的なリーダーとは

これまで述べてきましたことをまとめると、つぎのようなはたらきのできるリーダーが理想的なリーダーであるということがいえるでしょう。

- (1) 会員に興味をもたせ、何を望んでいるかをよくつかんでいる。
- (2) 会員を公平に扱い、グループをよくまとめていく。
- (3) 会員みんなが会の活動に喜んで参加するような、楽しいプログラムづくりにつとめる。
- (4) 会員ひとりひとりの個性と技能をじゅうぶんに出すことができるようにはかる。
- (5) 会員がそれぞれの責任を果たし、お互いに協力し合うように導く。
- (6) 会議や討議を指導して民主的なよい案の決定に導く。
- (7) 日常生活の中で、かんたんに手に入るような資材などを上手に工夫して活用させる。
- (8) 会のしごとをよく評価して、よりよい発展へと導く。
- (9) 会員のひとりひとりのよい相談相手になる。
- (10) ジュニア・リーダー、指導者、育成者と連絡をとり合い、会員の希望を伝えたり、会員に知らせたりする。
- (11) ほかに子ども会、児童館、学校、公民館などの団体や機関とよく連絡をとって、よりよい活動をめざす。

#### 5. リーダーは活動の基本をどこにおくか

リーダーは、子ども会活動の基本として、つねに「子どもによる子どものための子ども会」ということを心においておく必要があります。いいかえれば

- 自分たちの手で自主的に決める。
  - 会員が喜び楽しむものを中心に考える。
- ということです。

この基本を忘れてしまうと、子どもらしさのない無理な活動計画ばかり立てて、会員の心の重荷となり、退会者が出るということになりかねません。

しかし、みんなが喜ぶからといって、人の迷わくになるようなことをする

ことは許されません。

そこで、リーダーは自分の手で会員の喜ぶ活動計画をつくり、結果がみんなのためになり、あわせて社会の役に立つようなことを心がけることが必要となります。

さらに、つぎのようなことも考えておきたいものです。

- (1) 会員の年齢別、学年別、性別を考えて計画をたてる。
- (2) 行事はあまり多くせず、月1回から2回までとする。

## 〔2〕 子ども会活動

### 1. 子ども会活動としてどんなことがあるか

リーダーが活動計画をたてるときの参考として、子ども会活動の例をつぎにあげておきます。

#### (1) 年中行事

国民の祝日や、地方でおこなわれている行事を子ども向きにして子ども会にふさわしい文化活動としてとりあげるものです。

4月 入学進学を祝う会・春まつり・交通安全教室・花まつり

5月 子どもの日・児童福祉週間・母の日

6月 時の記念日・父の日

7月 七夕まつり・海の記念日

8月 おぼん・夏まつり・盆踊り・花火大会

9月 秋まつり・敬老の日・動物愛護週間・お月見

10月 読書週間・体育の日

11月 文化の日・七五三の祝・火災予防運動・勤労感謝の日

12月 クリスマス・年末大そうじ・餅つき

1月 お正月の集い・書き初め会・かるた会・たこ上げ大会

2月 節分

3月 お別れ会・ひなまつり・反省会

その他

たんじょう会・研究発表会・展示会・ゲーム大会・交通安全週間など

(2) 社会的なもの

- ア 社会的行事活動……ひな祭り、七夕祭り、クリスマス会など
- イ 奉仕活動……資源回収、道路や公園の清掃など、高齢者・障害者との交流
- ウ 安全活動……交通安全教育、救急法、KYTなど
- エ 生産活動……花だん植樹、野菜、米作り

(3) 文化的なもの

- ア 芸能文化活動……歌、人形げき、音楽会、映画会、伝承芸能など
- イ 創作活動……写生会、工作、作品展など
- ウ 学習活動……読書会、天体観測、国際理解（ユニセフ）など
- エ 広報活動……子ども会を対象とした手がき新聞、カベ新聞など

(4) 体育的なもの

- ア スポーツ活動……ラジオ体操、ソフトボール、ドッジボール、サッカー、綱引きなど
- イ 野外活動……キャンプ、オリエンテーリング、ハイキングなど
- ウ レクリエーション活動……ゲーム、ニュースポーツ、マジックなど

(5) 生活的なもの

子ども会活動、家庭生活、学校生活等を通じてみんなでいろいろな申し合わせを守る活動。

(申し合わせ例)

- ア 交通ルールを守りましょう。
- イ 安全な遊び場で遊びましょう。
- ウ お互いに元気よくあいさつをしましょう。
- エ 友達を大切にしましょう。
- オ お年寄りや身体の不自由な人に手助けしましょう。
- カ 小さい子をいたわりましょう。
- キ 家のお手伝いをしましょう。
- ク むだづかいをやめましょう。
- ケ 物を大切にしましょう。
- コ 自然を大切にしましょう。

サ みんなで緑を育てましょう。

シ 公園や遊び場をみんなできれいにしましょう。

## 2. 子ども会の会則

### (1) 会則をつくるには

子ども会は、小さくても団体組織ですから会則をつくるようにします。会則の内容はかんたんでわかりやすいものにし、ジュニア・リーダー、指導者、育成者にも相談して決めます。

会則には、活動の基本となることを定めます。

ア 名 称

イ 目 的

ウ 組 織

エ 活動内容

オ 役 員

カ 会 費

[参考例]

つぎの会則参考例を参照してください。

### ○ ○ 子 ども 会 会 則

第1条 私たちの子ども会は○○子ども会といます。

第2条 この会の目的は、みんなが一緒になって遊び、助け合ってよい子になることです。

第3条 私たち○○子ども会は、この目的のために次のことを行ないません。

(1) お互いを合わせて仲よくします。

(2) お互いにそんちょうし助け合います。

(3) みんなで勉強し合ってよい子どもになります。

(4) 他人に迷惑をかけず、人のためになることを行ないません。

第4条 私たち○○子ども会は、○○地域に住んでいる小・中学生で作ります。

第5条 私たち〇〇子ども会には、次の役員をおきます。

会 長 1名（子ども会のすべてのことをまとめます）

副会長 1名（会長を助け、ときには会長のかわりもします）

書 記 2名（すべての記録や通知などをつくります）

会 計 2名（会のお金をとりあつかいます）

班 長 〇名（班からえらび、班のまとめ役や連絡をします）

第6条 子ども会の役員は、全会員の選挙によりえらびます。

第7条 役員の任期は1年とします。

第8条 私たち〇〇子ども会の会費は1人1ヵ月〇〇円とします。

第9条 私たち〇〇子ども会のことはすべて育成会と指導者に連絡したり相談します。

第10条 私たち〇〇子ども会は、年1回以上総会を行ないます。

第11条 この会則は総会で変えることができます。

この会則は、平成〇年〇月〇日からまもります。

（金子連「新・子ども会入門」より）

### 3. 経費はどのようにするか

#### (1) 会費制とする

子ども会は、子どもによる自主的な団体ですから、経費は会員の会費でまかなうことが原則です。会費制をとるとつぎのような利点が考えられますので、会費制をとることが望ましいのです。

ア 会費を集めることにより会員意識を養うことができ、自主性を高める。

イ 活動が計画的となり、金銭の収支についての知識経験を得ることができる。そこで会費を集める場合その額をどの位にするか問題になりますが、やはり自分たちのおこづかいのうちから出せる金額ということになります。

（例 1人月100円程度）

#### (2) 会費以外の収入も考える。

会費だけではじゅうぶんな活動ができない場合もあるので、不足する分

は、つぎのようにしておぎなうようにします。

ア 子ども会育成会（後えん会）から助成してもらう。

イ 生産活動、はい品回収、バザーなどによって経費をうみだす。

(3) 経費を明らかにしておく

子ども会の金銭の出入りは、会計係が出納帳に記入してはつきりさせておき、町内や地域の方ならびに会員に公開します。

#### 4. 子ども会の会場をどうするか

(1) 屋内会場

子ども会の例会を開く屋内会場としては、地域によっては、児童館、公民館、学校、幼稚園、保育園、神社、寺院などを借用することもできますが、かならずしもこういう条件に恵まれていないのが実情です。特定の会員の家を開放してもらったり、会員の家をもちまわりによりおこなう方法もありますから、ジュニア・リーダー、指導者、育成者に相談するとよいでしょう。

(2) 屋外会場

子ども会において屋外スポーツなどを楽しむ会場として広場が必要ですが、これには児童遊園、公民館、学校、幼稚園、保育園、神社、寺院などの広場を開放してもらうことができます。また、育成会の人たちに相談して、個人や会社のあき地を子ども会広場に借用していただく方法もあります。広場の除草やごみの始末は、会員みんなでいたしましょう。

#### 5. 子ども会の記録

(1) 記録の必要性

子ども会での記録は、会の進歩のバロメーターで、反省の貴重な資料ですから必ず記録するようにしましょう。

(2) 記録の種類

記録は、会の歴史を物語るものです。記録の種類には、つぎのようなものがあります。

ア 子ども会の目標

- イ 出席記録
- ウ 活動の計画と反省
- エ 例会のきろく
- オ 金銭出納簿すいとうは
- カ 役員、指導者名簿

### 〔3〕 子ども会をのばしていくために

#### 1. リーダー研究会を開く

子ども会を上手に運営していくために、また、すぐれたリーダーとなるために、そのリーダーが集まって、実際上のことがらについて研究し合い相談することが必要です。

これも1年間に何回というように、計画的に大切な問題を順に研究するようになっています。

#### (1) プログラム例

9:30	開 会
9:40	体験発表
10:40	実技練習「ゲームの指導」
12:00	昼食、休けい
13:00	研究討議、全体会議、グループ討議
15:00	実技練習「グループソングの歌い方」
16:00	閉 会

#### (2) 研究討議の問題には、どんなものがあるかつぎに考えてみましょう。

- ア 子ども会のねらいをどこにおくか。
- イ 子ども会は何のために活動するか。
- ウ 子ども会に自主性がないときはどうするか。
- エ 子ども会の望ましい組織人員について。
- オ 子ども会に入会を好まない者をどうするか。
- カ 中学生が子ども会に参加しないときはどうするか。

- キ 中学生と小学生がしっくりいかないときはどうするか。
- ク 子ども会員みんながあまり熱意がないときはどうするか。
- ケ 例会の出席がわるいときはどうするか、その原因は何か。
- コ 子ども会の例会の開き方について。
- サ 子ども会行事にどんなものを入れたらよいか。
- シ 活動がどうしても行事本位になりやすいが、それでよいか。
- ス 子ども会のプログラムのたて方について。
- セ 子ども会の経費（会費）をどのようにするか。
- ソ 子ども会の会場をどのようにするか。
- タ 次期リーダーの要請をどのようにするか。
- チ 子ども会と学校（進学）との関係について。
- ツ 家庭（父母）や周囲の理解を高めるにはどのようにするか。

## 2. ジュニア・リーダー、指導者、育成者にしてもらうこと

ジュニア・リーダー、指導者、育成者には子ども会のよい助言者、協力者として会の外にあって、つぎのようなことをしてもらいましょう。

- (1) 子ども会の運営について、よい相談相手となってもらおう。
- (2) 集会や行事にも出席してもらい、指導助言をうける。
  - ア 会議の運営についての指導
  - イ ゲーム、歌、室内遊ぎの指導
  - ウ 日常活動、奉仕活動についての指導
- (3) 子ども会について町内や地域の人たちによく知ってもらおう。
- (4) 学校や親たちにも子ども会についての理解を高めてもらう。

